

令和2年度の学校教育の努力点とその推進計画

- (1) 研究主題 なかまと学ぶと楽しいね！
 — ぼくは〇〇、わたしは☆☆ —

(2) 主題について

子どもたちが様々な変化に積極的に向き合い、他者と協働して課題を解決していくことや、様々な情報を見極め知識の概念的な理解を実現し情報を再構成するなどして新たな価値につなげていくこと、複雑な状況変化の中で目的を再構築することができるようにすることが学校教育に求められている。

本校では、昨年度、主体的・対話的な学びを重視し「学びを深める授業づくり」をテーマとした。多くの学級でペア学習やグループ学習を行い、話し合い活動の活性化をはかった。一昨年度から重点的に行っていた認め合う学級集団づくりの成果もあり、話し合いそのものはどの学級でも盛んにおこなわれた。しかし、話し合いの内容に注目してみると、グループの中心になる子どもの意見で進むことが多かったり、学びが深まる意見交流とはならず、単なる伝達になったりしている場面も見られた。また、自分の考えをもてないまま話し合い活動を行っている子どもも見られた。

そこで、今年度は、個の学びが成り立つようにするために、一人一人が思考活動を行うこと【個別化】、そして、それらの考えを基に子どもが「友達の考えを聞きたい」という話し合いの必然性を感じる学習の流れ（思考の流れ）をつくること【協同化】を目指していきたい。また、学習計画を立てる際には、子どもが「～したい」「なぜ～」という問いがもてるような活動や資料の提示を行い、学習のめあてをつかむことができること【プロジェクト化(課題探究化)】も目指したい。

そして、このような実践の積み重ねは、個別最適化された学びへとつながっていくと考える。

(3) 研究の内容と方法

① 到達目標の設定

各学級での実態調査を参考に、各学級でねらいを設定する。

② 実践計画の立案

「個別化・協同化・プロジェクト化(課題探究化)」の視点から、学習活動を立案する。授業づくりにおける指導の改善・充実を目指す場面設定、手だて等について、研究大会に参加したり、文献を読んだりして研究を深め、各学年で検討し、実践計画を立てる。

③ 授業実践と授業公開

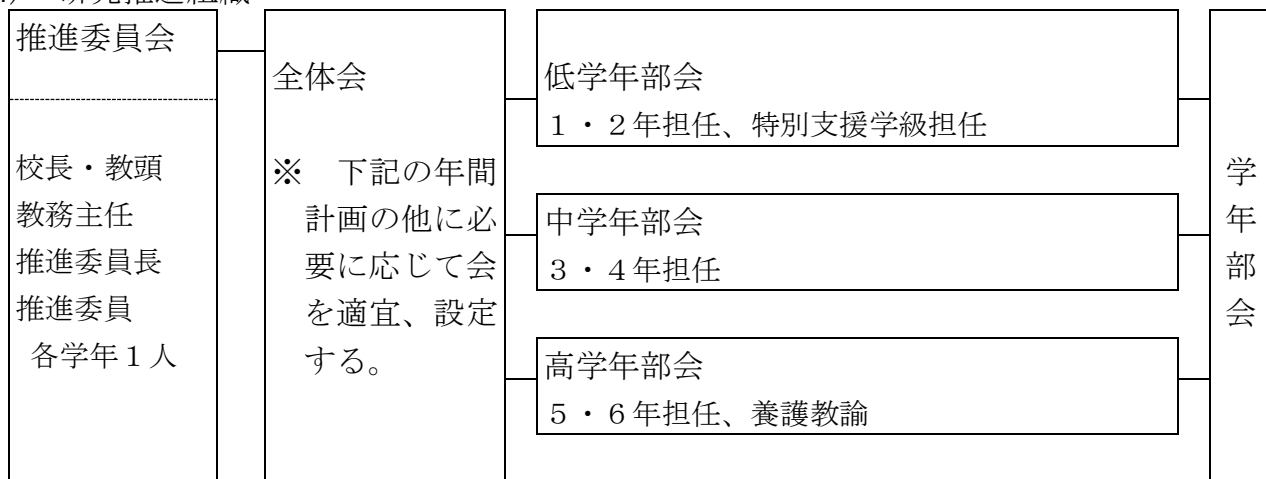
ア 代表授業

- ・ 年間1回の代表授業を設定する。
- ・ 事後検討会を全体会として行う。（全教員参加を原則とする。）
- ・ 各学年の推進委員は部会代表授業を授業開始から終了まで通して参観する。
- ・ 指導案は、全教員に前日までに配付する。

イ 一人一授業実践

- 各学年での授業実践を通して、手だてや計画によって、目指す子ども像に迫ることができたかを検討する。
(授業実践に当たっては、課題解決のための道筋が複数あるもので行うとよい)
- 全担任が、1回以上授業実践を公開し、それぞれの学年部会で事前検討会、授業参観、事後検討会を行う。(各授業者は各自の実践のまとめを作成する)
- 他の部会の職員も、事前検討会、授業参観、事後検討会に参加してもよい。

(4) 研究推進組織



(5) 研究推進年間計画

時期	推進委員会	全体会	各部会
4月	○ 研究主題の設定 ○ 推進計画の作成・決定 ○ 研究組織づくり ○ 研究計画の検討 ○ 授業実践計画	○ 研究のねらいと方法の確認 ○ 代表授業者の決定	○ 実践計画の立案 ○ 実態調査の実施 ○ 研究計画の検討
5月		○ 代表授業に向けての検討	○ 一人一授業実践
6月		○ 代表授業の事後検討会	○ 各部会での事前検討会、事後検討会
7月	○ 実践の中間検討		○ 文献研究
8月			○ 研究大会参加
9月		○ 中間報告会	○ 一人一授業実践
10月			○ 各部会での事前検討会、事後検討会
11月	○ 最終報告書の検討・提案		○ 最終報告書の作成
12月			
1月			
2月	○ 来年度の方針決定	○ 最終報告会	
3月			